



青森県基本計画

「青森新時代」への架け橋

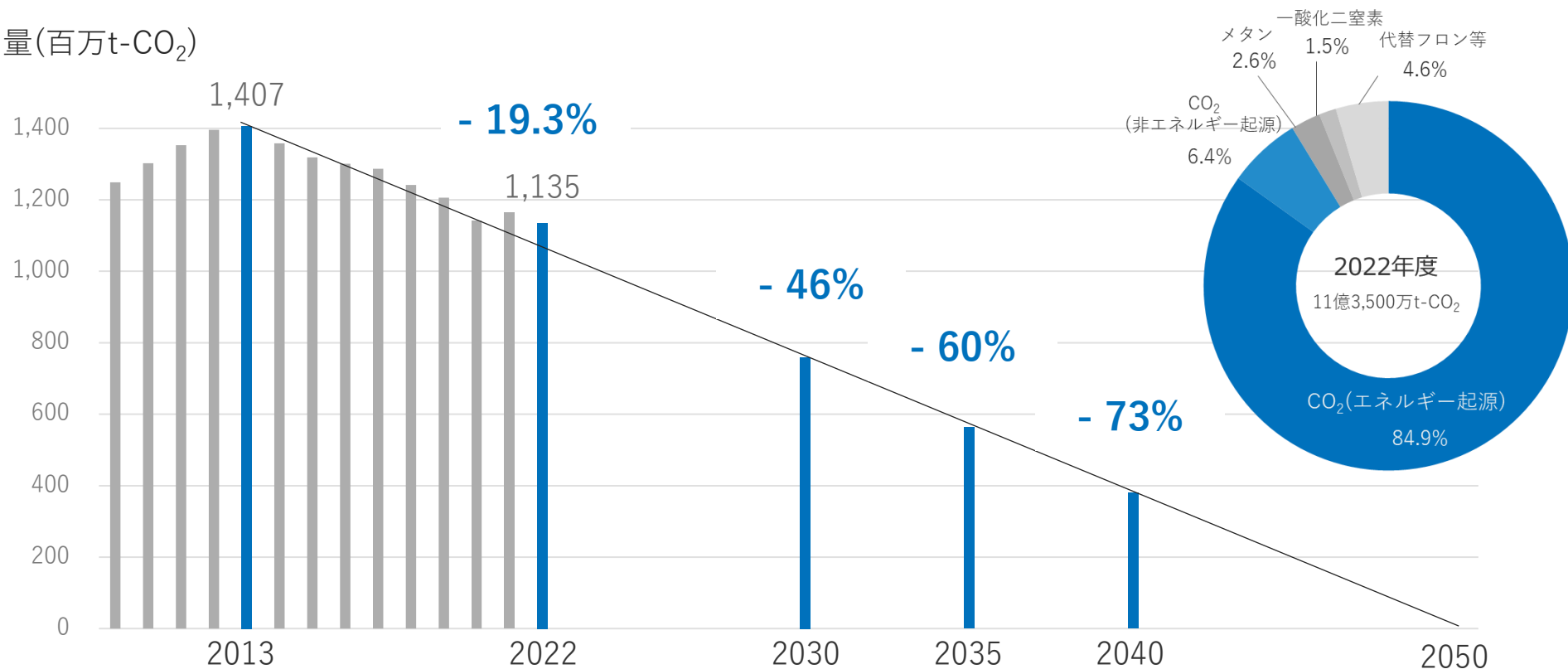
【2022年度(令和4年度)の実績】

青森県における温室効果ガス排出量状況について
(概要版)

全国^①の温室効果ガス排出量(出典：環境省)

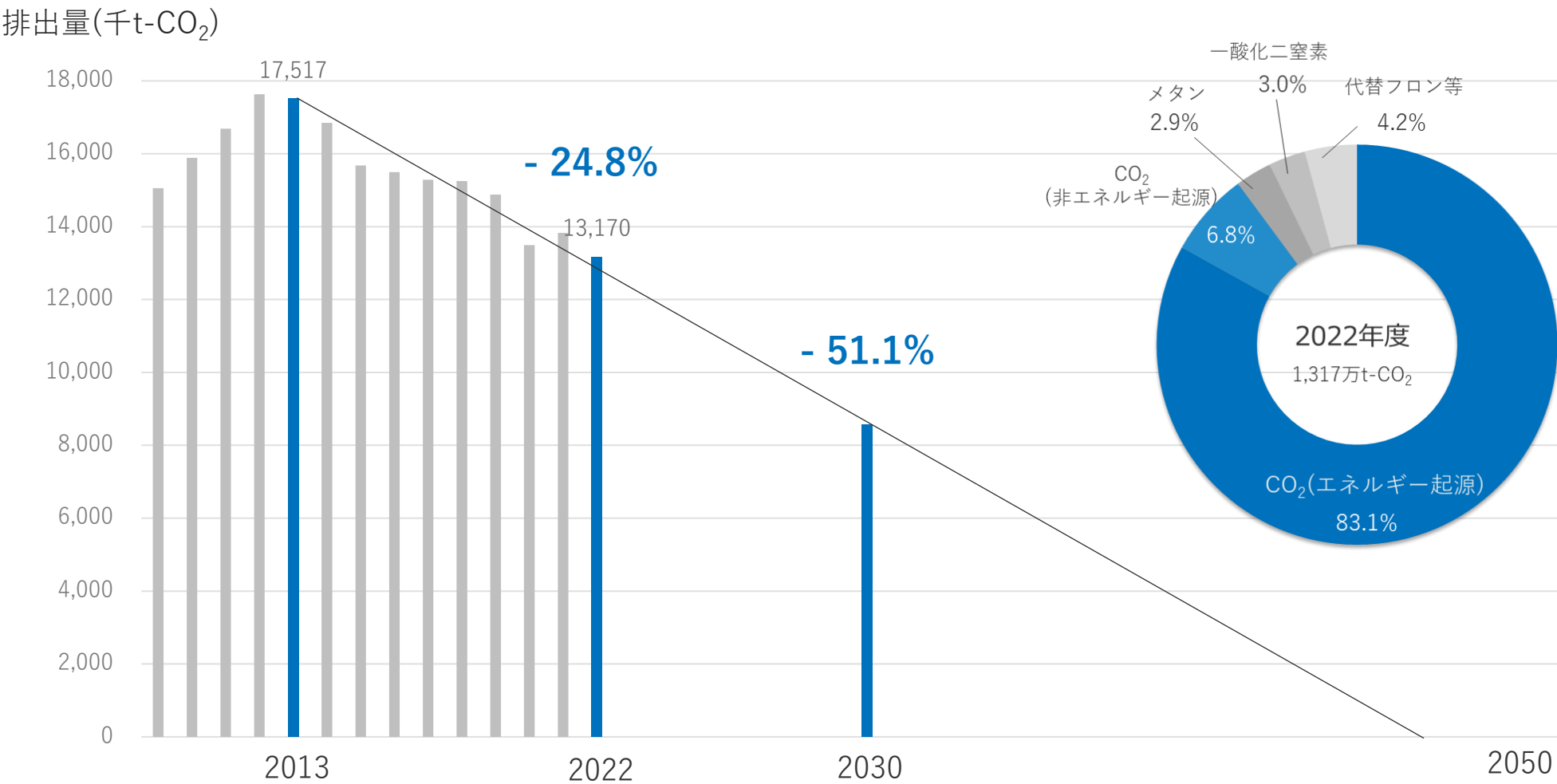
- **2022年度の排出量は11億3,500万トンCO₂換算（2021年度比2.5%減少、2013年度比19.3%減少）**
- 温室効果ガス排出量は、2021年度はコロナ禍からの経済回復により、エネルギー消費量が増加したことから、8年ぶりに増加に転じたが、2022年度は再び減少。
- 2021年度と比べて排出量が減少した要因としては、発電電力量の減少及び鉄鋼業における生産量の減少等によるエネルギー消費量の減少等が挙げられる。
- 2013年度と比べて排出量が減少した要因としては、エネルギー消費量の減少（省エネの進展等）及び電力の低炭素化（再エネ拡大及び原発再稼働）に伴う電力由来のCO₂排出量の減少等が挙げられる。

排出量(百万t-CO₂)



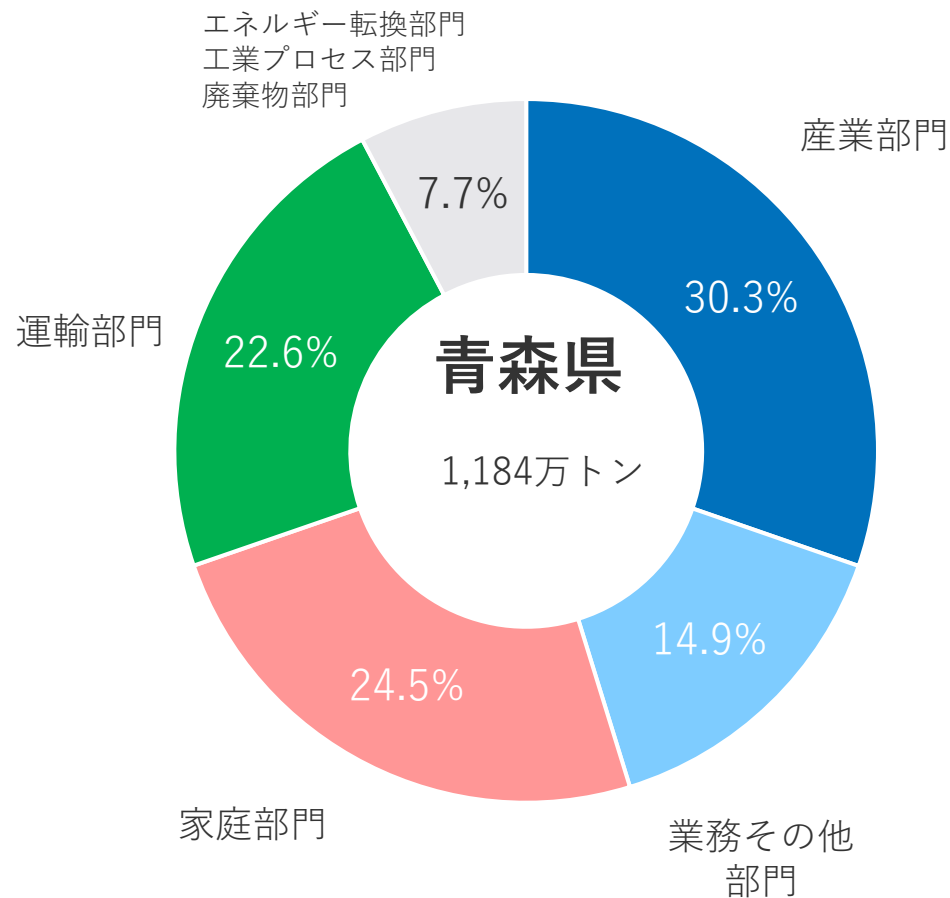
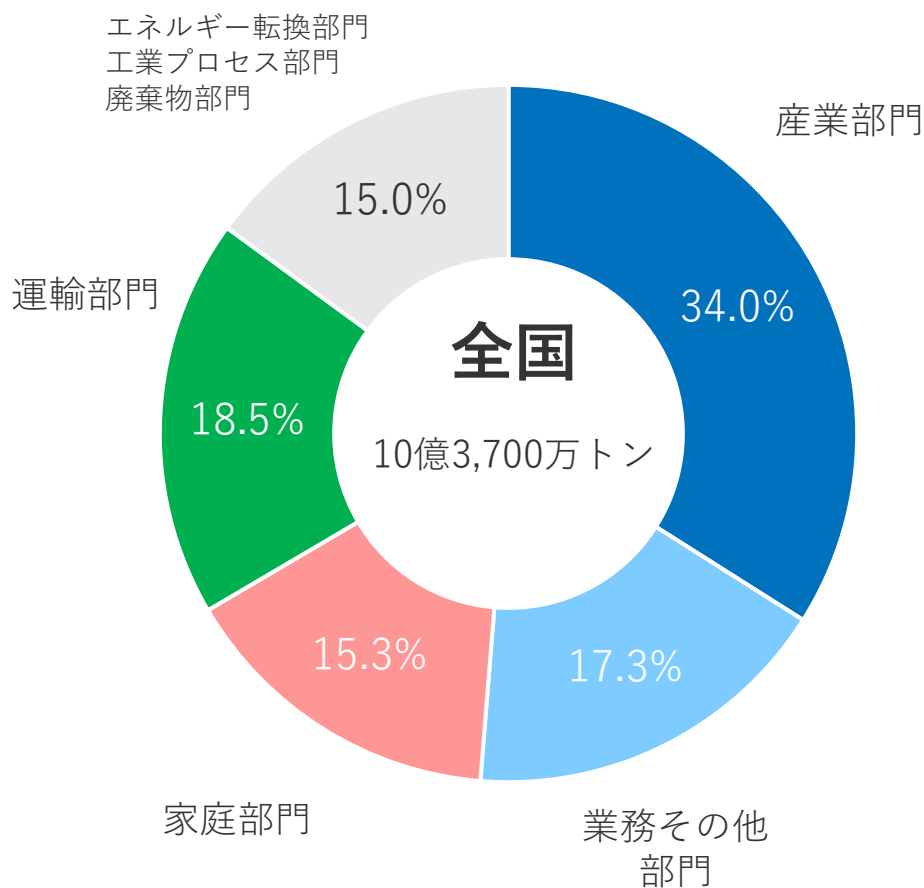
青森県の温室効果ガス排出量

■ **2022年度の温室効果ガス排出量は、1,317万トンCO₂換算（2021年度比4.8%減少、2013年度比24.8%減少）**
■ 本県の温室効果ガス排出量は、全国の傾向とほぼ同様の傾向で推移。



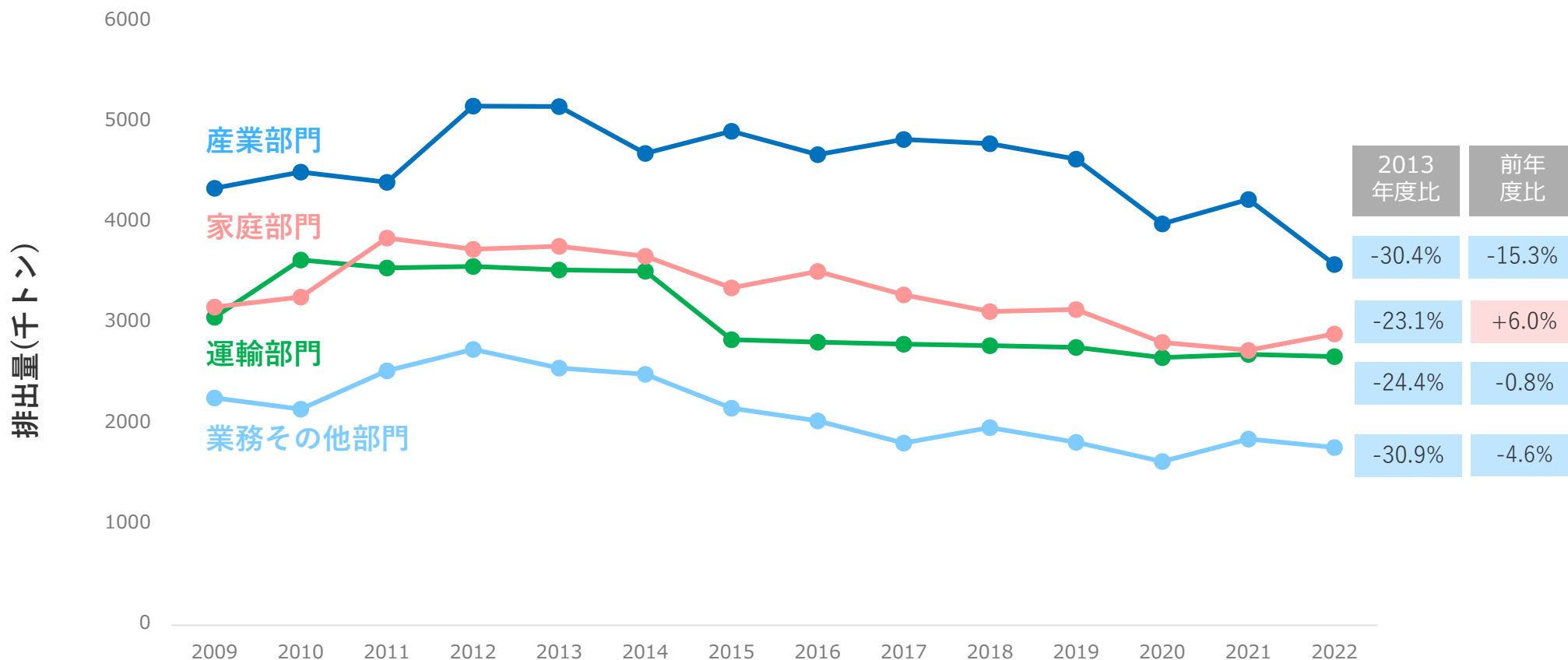
部門別のCO₂排出量

- 青森県の2022年度CO₂排出量においては、産業部門(30.3%)からの排出量が最も多く、次いで、家庭部門(24.5%)、運輸部門(22.6%)の順になっている。
- 全国と比較して、特に、家庭部門及び運輸部門からの排出が多いことが本県の特徴。



主要4部門のCO₂排出量の推移

■ 前年度からのCO₂排出量の変化を部門別に見ると、
産業部門：15.3%減少、家庭部門：6.0%増加、運輸部門：0.8%減少、 業務その他部門：4.6%減少



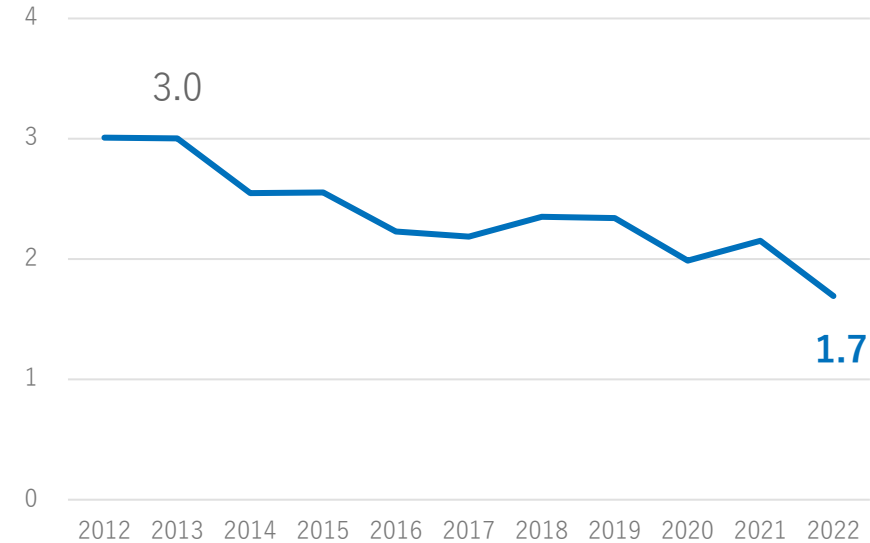
産業部門におけるCO₂排出量の増減要因

2013年度との比較(-30.4%)

産業部門の排出量の約9割を占める製造業において、**製造品出荷額当たりのCO₂排出量が低下**している。

生産性の向上やエネルギー効率の向上等により、産業部門のCO₂排出量が減少していると考えられる。

製造品出荷額等当たりの
製造業排出量 (t-CO₂/百万円)



2021年度との比較(-15.3%)

製造業の排出量の約5割を占める、**鉄鋼・非鉄・金属製品製造業における製造品出荷額は前年度と比較して減少**しており、生産量が減少に伴ってエネルギー使用量が減少したものと考えられる。

製造業の製造品出荷額の前年度比 (単位:百万円)

項目	2021	2022	前年度比
食品飲料製造業	528,166	596,724	13.0%
繊維工業	16,283	15,978	-1.9%
木製品・家具他工業	34,357	38,926	13.3%
パルプ・紙・紙加工品製造業	92,945	94,158	1.3%
印刷・同関連業	16,979	17,618	3.8%
化学工業 (含 石油石炭製品)	37,143	44,082	18.7%
プラスチック・ゴム・皮革製品製造業	15,969	20,603	29.0%
窯業・土石製品製造業	46,497	51,284	10.3%
鉄鋼・非鉄・金属製品製造業	420,410	296,893	-29.4%
機械製造業	499,550	483,966	-3.1%
他製造業	7,577	8,133	7.3%

業務その他部門におけるCO₂排出量の増減要因

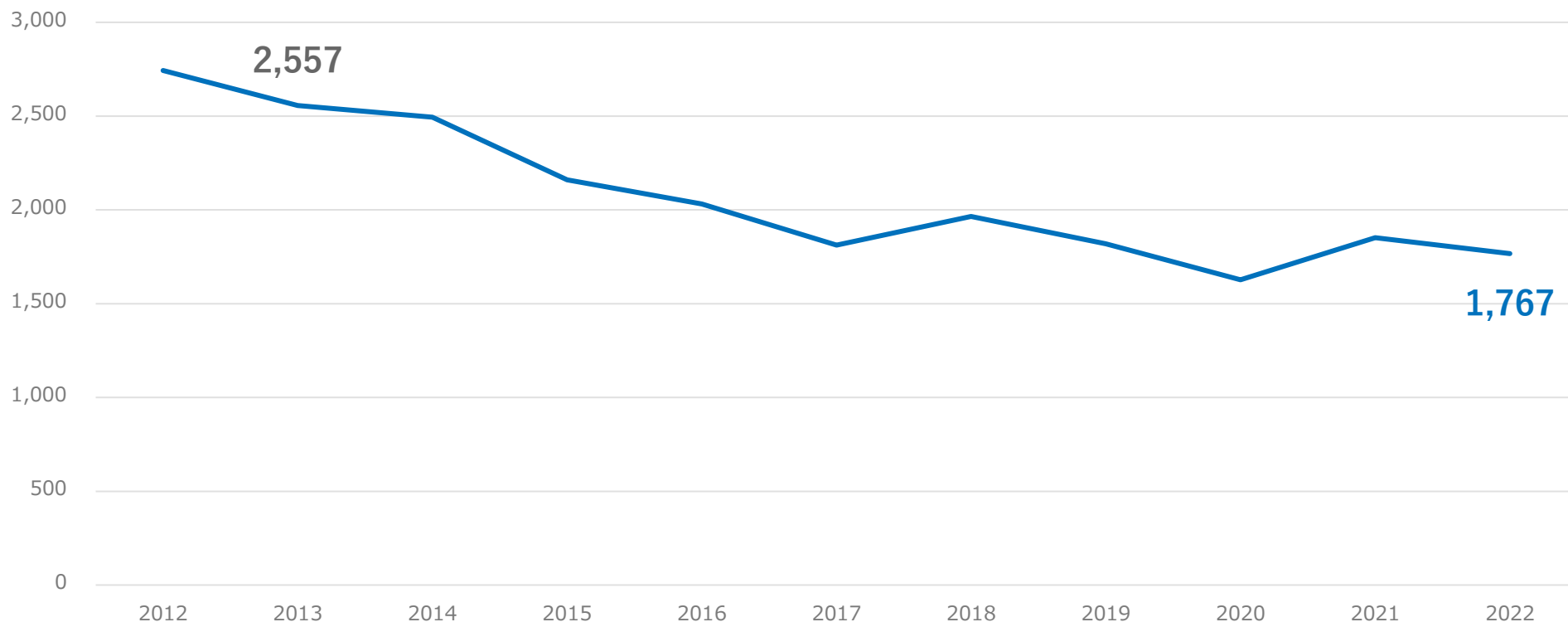
2013年度との比較(-30.9%)

基準年度と比較して二酸化炭素排出量が減少している要因としては、**省エネ型建築物の普及による冷暖房エネルギーの節減や、LED照明等の省エネ型の電化製品の普及が考えられる。**

2021年度との比較(-4.6%)

業務その他部門の二酸化炭素排出量は、2013年度から減少傾向にあり、前年度から2022年度にかけても、その傾向が継続したものと考えられる。

業務その他部門のCO₂排出量(千t-CO₂)

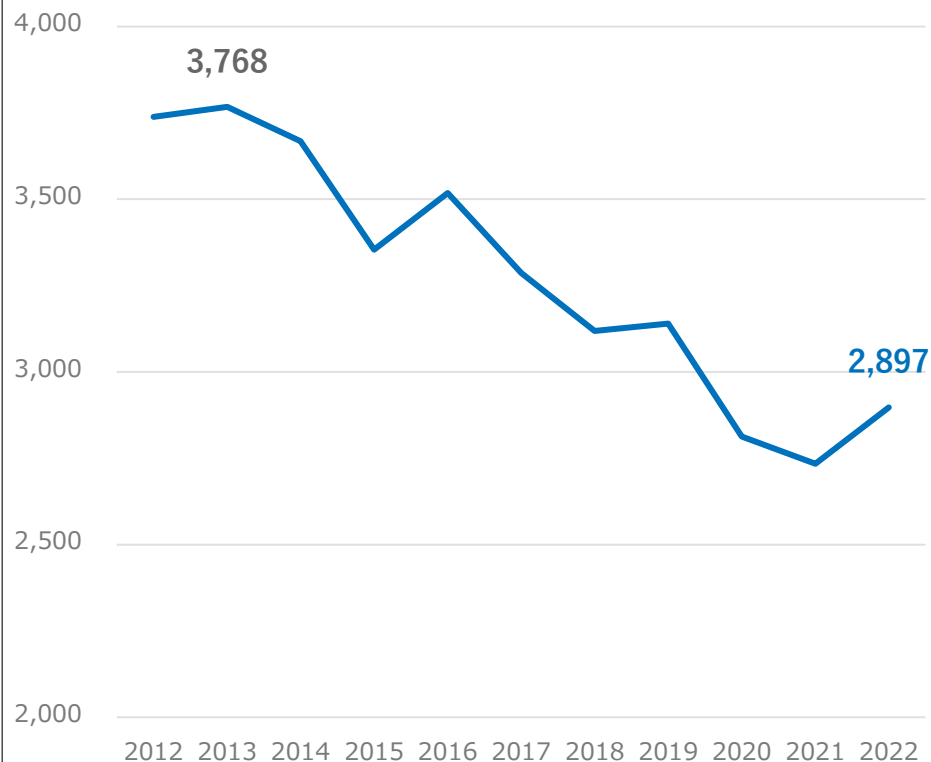


家庭部門におけるCO2排出量の増減要因

2013年度との比較(-23.1%)

基準年度と比較して二酸化炭素排出量が減少している要因としては、**LED照明等の省エネ型の電化製品及び省エネ住宅の普及等による電力消費量の減少**などが考えられる。

家庭部門のCO₂排出量(千t-CO₂)



2021年度との比較(+6.0%)

灯油使用量は、前年と比較してほぼ横ばいであるのに対し、**電力消費量は増加**。

電力消費量が増加した理由としては、**夏季の冷房需要の増加が要因の一つと考えられる**。(9月の平均気温が1℃以上高く、冷房を使用する時期が長期化したものと考えられる。)

電力消費量
(百万kWh)

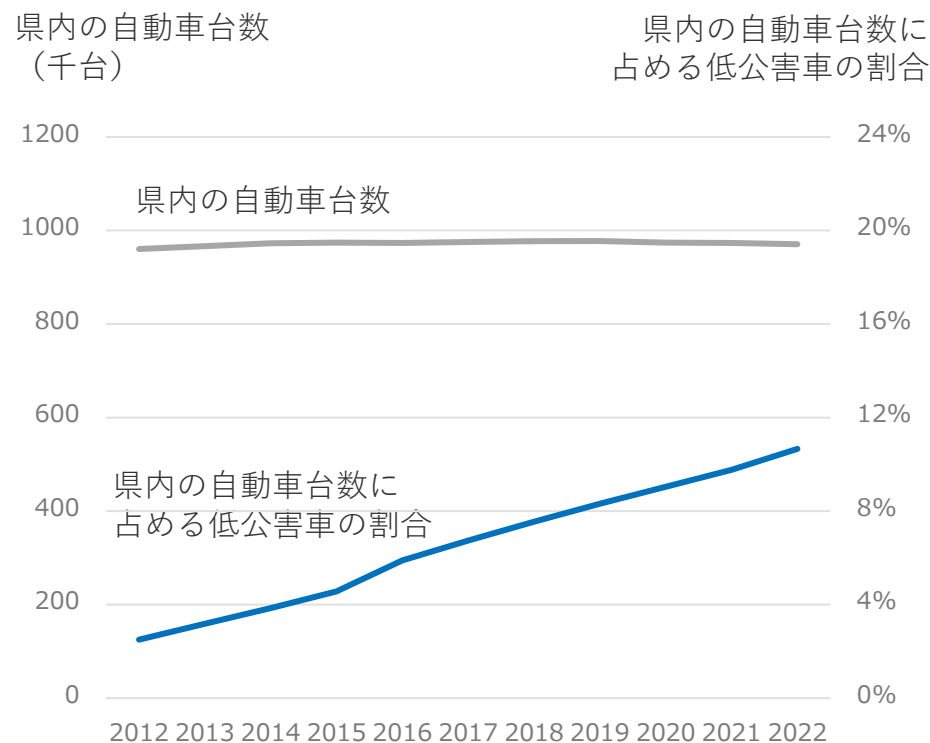
灯油使用量
(百万kWh)



運輸部門におけるCO₂排出量の増減要因

2013年度との比較(-24.4%)

基準年度と比較して二酸化炭素排出量が減少した要因としては、**低公害車の台数の増加等に伴い、1台当たりの二酸化炭素排出量が減少傾向にあることなどが考えられる。**



2021年度との比較(-0.8%)

自動車からの排出量は、低公害車の台数の増加等に伴い、減少傾向。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因する経済停滞からの回復に伴う輸送量の増加等により、**鉄道・航空・船舶からの排出量が増加。**

